

オンライン授業ってなに？

～メリットから注意点・成功させる
コツまで全部おしえます～



デジタル・ナレッジ

CONTENTS

目次

■ 第一章

オンライン授業とは／オンライン授業の種類

■ 第二章

メリット・デメリット／オンライン授業に必要なツール

■ 第三章

学習管理システム（プラットフォーム）の選定／
オンライン授業の使い方／KnowledgeDeliverの紹介

はじめに

eラーニング（オンライン授業システム）の利用が爆発的に増えています。新型コロナウイルスの影響でテレワークが推奨されたことがきっかけとなり、教育機関における“遠隔教育”や組織（企業・官公庁など）の“社員教育”にeラーニングを活用するケースがこれまで以上に増加したことが背景にあります。

しかし、eラーニングを利用しようと思っても、システムは数多くあり、機能も様々、コンテンツも多岐にわたるため、「どの製品・サービスが自社・自校に合うのかわからない」という声をよく聞きます。

そこでデジタル・ナレッジでは、本資料を含むホワイトペーパーの資料にて、eラーニングの導入を検討されている、もしくはご利用中のeラーニングシステムの変更を検討されている組織・教育機関の皆さまに向けて、基礎知識や導入のポイントを分かり易く解説いたします。eラーニングの選定にお役立ていただきたいと思います。

第一章

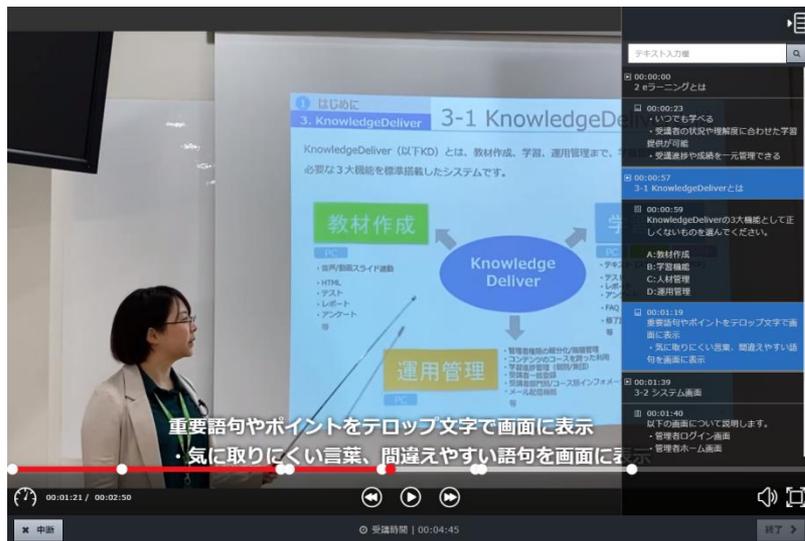
～オンライン授業とは／オンライン授業の種類～

オンライン授業とは？

学校や塾の授業や講義（以下授業）において、特定の場所に集合し講師が直接生徒や受講者（以下学習者）に授業をおこなう“対面授業”に対し、「オンライン授業（もしくは遠隔授業）」はパソコンやタブレット、スマートフォン、大型モニタ等のデバイスを活用し、ネットワークを介して遠隔授業を実施することを指します。

オンライン授業は時間や場所にとらわれずに“いつでも・どこでも・何度でも授業を受けることが可能”な点が最大の特徴です。オンライン

授業の活用方法は様々あり、大きくは学校や塾等の教育現場において「**学びを強力にサポートするためのツール**」としての役割や、山村や離島など過疎化が進む地域の学校授業の充実、不登校や病気療養、その他様々な事情により通学して教育を受けることが困難な学習者一人ひとりに合わせた教育支援など「**教育格差解消を担うツール**」としての活用、専門家などの外部人材の登用・新たな科目の開設といった「**教育指導の幅を広げるツール**」としての活用など、様々な側面があります。



オンライン授業の種類①

オンライン授業は大別すると、リアルタイムに映像データを配信する「ライブ配信」と予め撮りためておいた動画を視聴する「オンデマンド配信」の2つの種類があります。

🔧 ライブ配信

ライブ配信は遠く離れた学習者にも教室と同様の臨場感あふれる授業をオンラインで届けること（オンライン教育の実施）ができ、学習者は授業が配信されている同時刻にパソコン・スマートフォン・タブレット・大型モニタ等のデバイスを使用してインターネットにアクセスし、ライブで視聴ができる受講形態です。ライブ配信ならではの、学習者参加型の双方向コミュニケーションも可能です。

授業を遠隔でライブ配信

マイクやチャットを使用し、学習者参加型の双方向授業も可能。



オンライン授業の種類②

🔧 オンデマンド配信

オンデマンド配信は予め収録した授業の教材を学習者が好きな時間に好きな場所で、パソコンやスマホなどのデバイスを使ってインターネットにアクセスし、何度でも視聴することが可能な受講形態です。

教材の撮影は、動画教材の場合は教室での授業を据置カメラでそのまま収録したり、テレビ番組のように脚本・演出が施されたものや、クロマキー合成技術を取り入れた映像などがあります。

授業の予習・復習として動画教材を視聴

復習することで理解度を深めたり、実際の授業前の予習として動画教材を視聴する。



個々の理解度に応じた授業の実施

分からないところは何度でも。理解できたらどんどん進む。自分のペースで学習できる。



第二章

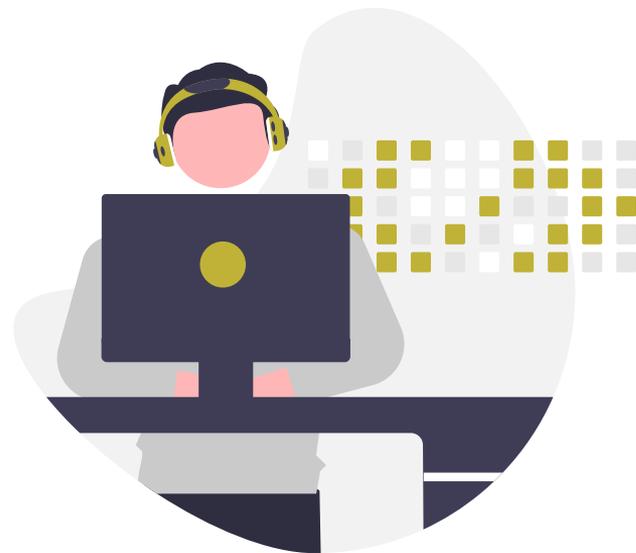
～メリット デメリット・オンライン授業に必要なツール～

オンライン授業のメリット・デメリット

オンライン授業の導入は教室運営費のコスト削減や、学習者側にとっては移動に関わる時間・交通費の節約につながります。また、「授業品質の均一化」「専門家からの直接指導等による高品質な授業の実現」「学習行動の可視化」、さらには「災害や感染症の発生による臨時休校などの緊急時にも授業が実施できる」など、学習者側・教育者側の双方にとって多くのメリットをもたらします。

一方、課題としては、オンライン授業に必要な設備の整備が挙げられます。

オンライン授業を受講する学習者側のパソコンやタブレット、ネットワーク環境、授業を提供する教育者側の撮影機材や配信システムなどが十分整っていないことが懸念されています。学習者側の環境については、以前に比べ家庭における端末の普及率が上がってきてはいますが、低年齢化するほど一人一台端末には程遠い状況にあります。学校においては文部科学省が掲げるGIGAスクール構想における“児童・生徒一人一台の端末と高速大容量通信ネットワークの整備”の実現が課題解決の鍵となりそうです。



学習者のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
ライブ配信	<ul style="list-style-type: none">・ 会場に出向かなくても臨場感ある授業が受けられる・ 質問をする、発表をするなど学習者側からのアクションが可能・ ディスカッションなど複数の学習者で学び合うことも可能・ 教科書では伝わりにくい動作を伴う事柄や、専門家からの直接指導など品質の高い授業が可能・ 病気やケガ、そのほか様々な事情を持つ学習者も授業を受けられる・ (ウイルスの蔓延など) 非常事態の環境下で学ぶ場所がなくてもオンラインで授業を受けられる・ 自学習ではつい後回しにしてしまうことがあるが、時間が決まっているライブ配信は学習のモチベーション向上が期待できる	<ul style="list-style-type: none">・ 体験学習や実技がともなう授業には不向き・ インターネット環境とパソコン・スマホなどのデバイスが必要・ 授業の時間が決まっているのでそれに合わせて視聴する必要がある
オンデマンド配信	<ul style="list-style-type: none">・ 自宅や外出先など好きな場所で学習できる・ 理解度に応じ、自分のペースで学習できる・ 苦手箇所を繰り返し視聴するなど理解をさらに深めることができる・ 教科書では伝わりにくい動作を伴う事柄や、専門家からの直接指導など品質の高い授業が可能・ 学習履歴や学習進捗が可視化されてわかりやすい・ (ウイルスの蔓延など) 非常事態の環境下で学ぶ場所がなくてもオンラインで授業を受けられる	<ul style="list-style-type: none">・ わからないところがあってもその場で質問ができない・ 体験学習や実技がともなう学習には不向きである・ 学習者間の交流が図りにくい・ インターネット環境とパソコン・スマホなどの端末が必要・ 強制力がないので自主的に学習する意欲が求められる

教育側（学校・塾）のメリット・デメリット

	メリット	デメリット
ライブ配信	<ul style="list-style-type: none">リアルな対面授業に準じた教育を提供できる会場に来ることができない学習者にも広く学びを提供できる授業品質の均一化を図れる双方向授業が実現できる教科書では伝わりにくい動作を伴う事柄や、専門家からの直接指導など品質の高い授業が可能教室運営費を削減できる（ウイルスの蔓延など）非常事態の環境下で教育の場がなくてもオンラインで授業を配信できる	<ul style="list-style-type: none">ライブ配信のためのシステムが必要となるWeb会議システムを利用したライブ授業の場合、学習履歴などを取得することができず、系統立てた教育プログラムの提供がむずかしいライブならではの授業の進め方や講師のスキルが求められる
オンデマンド配信	<ul style="list-style-type: none">動画教材の修正、アップデートが常時可能最新の動画を全学習者に一斉配信できる授業品質の均一化を図れるすべての学習者の学習履歴を一括管理できる学習者一人ひとりに最適な教材を提供できる導入以降のコストを削減できる教科書では伝わりにくい動作を伴う事柄や、専門家からの直接指導など品質の高い授業が可能教室運営費を削減できる（ウイルスの蔓延など）非常事態の環境下で教育の場がなくてもオンラインで授業を配信できる・学習者の視聴履歴を解析することで、繰り返し再生されている箇所や、よく離脱する箇所を確認し改善することができる。	<ul style="list-style-type: none">動画教材を作成する手間やコストがかかる教材配信や学習管理のためのシステム（LMS）が必要となる

オンライン授業に必要なツール

オンライン授業のデメリットとして挙げた“設備の整備”について、実際にオンライン授業を実施するにはどのようなツールが必要となるのかをみていきましょう。

オンライン授業にはYouTubeなどの動画共有サービスを利用して教材を配信するものから、学習機能や教育側が学習履歴・成績管理を行う機能を搭載した“学習管理システム”を利用して学習者に教材を配信するものもあります。ここでは学校や塾で求められる、品質の高い教育の実現を想定し、後者の“学習管理システム”を活用した場合に必要なツールについて紹介いたします。



次のページで
もっと詳しく

	教育者（学校・塾）側	学習者側
必要なツール	<ul style="list-style-type: none">学習管理システム（LMS）インターネット回線パソコン教材（動画）撮影用のカメラマイク	<ul style="list-style-type: none">スマホ・タブレット、PCなどのデバイスインターネット回線カメラ（デバイス内蔵で可）マイク（デバイス内蔵で可）

学習管理システムとは？

学習管理システム

(LMS：Learning Management System) は、パソコンやスマートフォン、タブレット等で学習を行う際のベースとなるシステムで、多くの学習管理システムは学習者がログインして教材の視聴や、テストを受ける“受講機能”、教員や管理者が受講履歴や成績管理を行う“管理機能”からなります。

オンライン授業はオンラインで教育を提供するための根幹のシステムで、一般には

「eラーニングシステム」や「eラーニングプラットフォーム」などと呼称されることもあります。なお、「学習管理システム」という言葉のイメージから学習を管理するためのシステムと思われがちですが、管理者向けの学習管理というより、主には学習者に向けて学習しやすく効果の高い学習環境を提供することが主眼に置かれています。



第三章

～学習管理システム（プラットフォーム）の選定・
オンライン授業を成功させるために～

学習管理システムの選定①

学習管理システム選定の際に押さえておきたいポイントについてみていきましょう。

①学習管理システムの選定の前に...

教育者側・学習者側双方にとっての使い勝手はもちろんのこと、“理想とする教育を実現できるシステム”か否かが非常に重要なポイントといえるでしょう。選定を進める前にまずは、学校や塾などの教育機関においてどういふ教育を実現したいかを十分話し合うことをお勧めします。

②メンバー選出

導入・運用の全工程やスケジュールを管理する全体統括のほか、各主要ポジションの運用メンバーなどを決めておくといいでしょう。

③学習管理システムの形態は？

学習するための機能や学習を管理するための機能が搭載された学習管理システムには、“クラウド”“自社構築”“ASP”といったいくつかの提供形態があります。①の、どのような教育を実現したいかといった教育の目的や、準備期間、学習者の想定人数、予算などを検討の上、選定を進めると良いでしょう。

学習管理システムの選定②

④教材作成は内製か外注か？

近年は資料や画像による静的な教材ではなく、動画やアニメーションを多用した動的でわかりやすい教材が主流となりつつあります。教材を内部で作成する場合は、作成チームの体制整備を進めましょう。また教材作成については学習管理システムに教材作成の機能が付いているものと一元管理が可能なのでお勧めです。

⑤学習者が視聴する機能は？

スマートフォン、タブレット、PCなどマルチデバイス対応が主流です。学習者にとって見やすく、わかりやすく直観的な操作が可能で、なるべく負担のかからない機能であることが重要です。

⑥教育者が学習状況を管理する

オンライン授業成功の秘訣、それは毎日の管理にあるといっても過言ではありません。教育者側が抵抗なく直感的に扱うことができ、かつ細やかな配慮が行き届いたシステムが必要となります。オンライン授業の実施において、学習管理システムの選定は非常に重要な作業です。

オンライン授業を成功させるために…

オンライン授業を成功させるために、押さえるべき3つのポイントをご紹介します。

ポイント① 事例をなるべく多く集めて“理想とする教育のイメージを描く”

オンライン授業の成功事例や失敗事例などの情報を収集し、参考にしながら「どのような教育を実現したいか、オンライン授業をどう活用したいかというゴールイメージを描くことをお勧めします。事例についてはインターネットや冊子、セミナー等で数多く公開されておりますので、ぜひ参考にしてみてください。

ポイント② スモールスタートがベスト。小さな失敗を重ねながら経験・ノウハウを積む

学習管理システムで教材の登録や学習者の登録、そして受講といった一連の流れを実際に体験してみて初めてわかること、見えることが数多くあると思います。できれば事前に一連の流れを体験するなどして課題を洗い出し、ノウハウを積んでから本格的にプロジェクトを始動することが理想形だと思います。学習管理システムには無料のトライアル環境を用意しているサービスもあるので、確認すると良いでしょう。

ポイント③ 理解してくれる人・応援してくれる人を増やす

校内、塾・スクール内には「もっとこういう授業を実施したい」といった、教育に対する想いをお持ちの方がいらっしゃる場合があります。理解者や応援者を増やし、協力してもらいながら、プロジェクトを進めるというのも非常に重要なポイントといえるでしょう。

お勧めの学習管理システム

KnowledgeDeliver (ナレッジデリバー)



学習・運用管理のみならず、Webベースで教材を手軽に作成・配信・管理可能な、国内有数の統合型eラーニングプラットフォーム。柔軟なカスタマイズ性及び拡張性を有し、高いレベルのeラーニングサービスをご利用いただけます。企業・官公庁・スクール・学校法人などへの導入実績は2000以上。

[KnowledgeDeliverについて詳しく知る](#)

KnowledgeDeliverの特徴

1. 映像教材など動的でわかり易い教材を脅威の手軽さで作成可能
2. マルチブラウザ・OS対応で、スマホ・タブレットなど多種多様な学習スタイルに対応
3. 「使いやすさ」と「多機能性」の両方を追求した運用管理機能
4. ASP、クラウド、パッケージなど豊富な導入形態をご用意
5. 定期的なバージョンアップで新機能追加と最新クライアント環境に対応
6. ご要望に応じた柔軟なカスタマイズ対応
7. 数十万名様向けの大規模運用対応
8. 第三者機関による脆弱性診断・検査の定期受診による万全のセキュリティ対策
9. プライバシーマーク®、ASP・SAAS安全・信頼性情報開示認定済み
10. サポートセンタによる安心の運用サポート体制

KnowledgeDeliverが選ばれる理由

選ばれ続ける8つの安心



これ一つで完結

eラーニングに必須の「教材作成」「学習」「運用管理」機能を標準搭載。他のツールをご用意いただく必要がありません。



マルチデバイス対応

PCはもちろん、スマートフォン、タブレットでも学べるマルチデバイス対応。スマホで動画配信も可能です。



年4回のバージョンアップ

お客様のニーズやトレンドに合わせた新機能追加、最新クライアント環境に対応。新しいLMSを提供し続けています。



2000以上の導入実績

企業・官公庁・医療機関など実績多数。売上拡大も効率化もコスト削減も、各分野に精通した専門部署にお任せください。



ご要望にあわせたカスタマイズ

課題や目的が違えば導入すべきeラーニングの形も異なります。お客様の要望にあわせた柔軟なカスタマイズが強みです。



豊富な導入形態・大規模運用

ASP、オンプレミス、DKクラウド、パブリッククラウド等、豊富な導入形態をご用意。数十万名様向けの大規模運用にも対応。



安心の運用サポート

運用ご担当者様や受講者様向けにサポートセンタを設置。電話、メールによるサポートでより円滑な運用をサポートいたします。



個人情報保護・セキュリティ対策も万全

KnowledgeDeliverを基盤としたASPサービス「ナレッジデリ」では「ASP・SaaS安全・信頼性情報開示認定」を受けています。

皆さまからのご連絡をお待ちしております

メールで質問

infoadmin@d-k.jp

電話で質問

導入の
ご相談 **050-3628-9240**

その他 **03-5846-2131**

サイトを見る

デジタル・ナレッジ

検索

 **デジタル・ナレッジ**